

# TOYOTA ENVIRONMENTAL CHALLENGE 2050



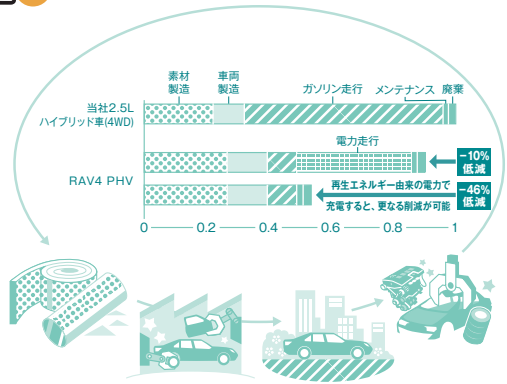
<https://global.toyota.jp/sustainability/esg/challenge2050/>

## 「人とクルマと自然が共生する社会」を目指して ～トヨタ環境チャレンジ2050～

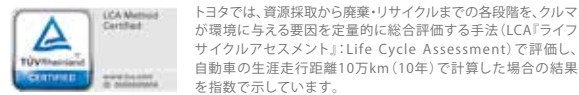
トヨタは、温室効果ガスに起因する異常気象、生物多様性の喪失、水不足など、深刻化する地球環境の諸問題に対し、これまで幅広い取り組みを推進してきました。今後もクルマの環境負荷をゼロに近づけるとともに、地球・社会にプラスとなる取り組みを通じて、持続可能な社会の実現に貢献するための6つのチャレンジ(ゼロへのチャレンジ と、プラスへのチャレンジ )を実施していきます。

## CO<sub>2</sub> “0” へのチャレンジ ～環境負荷をゼロに近づけるためのトヨタの取り組み～

### CO<sub>2</sub> 0 ライフサイクルCO<sub>2</sub> ゼロチャレンジ



トヨタはクルマの一生のCO<sub>2</sub>削減をデザインしています  
トヨタでは燃費を良くするだけでなく、設計段階から、製造・廃棄・リサイクルにいたるクルマの一生を通して、CO<sub>2</sub>排出量を削減するための取り組みを行っています。



トヨタでは、資源採取から廃棄・リサイクルまでの各段階を、クルマが環境に与える要因を定量的に総合評価する手法(LCA「ライフサイクルアセスメント」:Life Cycle Assessment)で評価し、自動車の生涯走行距離10万km(10年)で計算した場合の結果を指数で示しています。

トヨタが乗用車を対象に実施しているLCAの手法は、ドイツの第三者認証機関テュフラインランドによるISO14040/14044規格に基づく審査・認証を受けました。

### CO<sub>2</sub> 0 新車CO<sub>2</sub> ゼロチャレンジ



燃費の良いクルマを選ぶと、CO<sub>2</sub>の削減に協力できます  
クルマは、燃費が良くなればなるほど、CO<sub>2</sub>の排出量を削減することができます。トヨタでは、燃費を向上させるために、あらゆる部品の軽量化や効率化を推進しています。

### CO<sub>2</sub> 0 工場CO<sub>2</sub> ゼロチャレンジ



トヨタはエコカーだけでなく、エコ工場にも力を入れています  
RAV4 PHVをつくる工場は、シンプル&スリム化を高度に実現した工場です。塗装の設備では構造をゼロから見直し、熱エネルギーのロスを大幅に削減。2019年度省エネ大賞\*1を受賞しました。敷地内へのソーラーパネルの導入により一般家庭50棟相当\*2の再生エネルギーを工場の動力へ活用するなど、CO<sub>2</sub>排出量の削減を積極的に進めています。

\*1. 省エネ大賞は、優れた省エネ取り組みを表彰する、経済産業省後援による一般財団法人省エネルギーセンター主催の制度です。  
\*2. 定格出力200kW

項目	仕様	単位	値
車両型式	6LA-AXAP54		
エンジン	総排気量	L	2.487
駆動装置	駆動方式		電気式4輪駆動方式
車両重量		kg	1,900~1,940
燃料消費率	燃料消費率*1(国土交通省審査値)	km/L	22.2
	CO <sub>2</sub> 排出量	g/km	105
排出ガス	認定レベルまたは適合規制(国土交通省)		平成30年基準排出ガス75%低減レベル*2
	CO/NMHC/NOx	g/km	1.15/0.025/0.013
車外騒音(加速/定常/近接)*3		dB	73(規制値)/-/71
冷媒の種類(GWP値*4)/使用量		g	HFO-1234yf(1*5)/1,500
環境負荷物質削減	鉛/水銀		自工会2006年自主目標達成(1996年比1/10以下*6)/自工会自主目標達成(2005年1月以降使用禁止*7)
	カドミウム/六価クロム		自工会自主目標達成(2007年1月以降使用禁止)/自工会自主目標達成(2008年1月以降使用禁止)
車室内VOC*8			自工会自主目標達成(厚生労働省室内濃度指針値*9以下)
リサイクル関係	リサイクルし易い材料を使用した部品		バンパーカバー、インストルメントパネル、その他内装材
	樹脂、ゴム部品への材料表示		あり
	リサイクル材の使用		ダッシュサイレンサー

- \*1. 燃料消費率は定められた試験条件のもとでの値です。お客様の使用環境(気象、渋滞等)や運転方法(急発進、エアコン使用等)に応じて燃料消費率は異なります。
- \*2. WLTCモード走行。
- \*3. 平成28年騒音規制。
- \*4. GWP:Global Warming Potential(地球温暖化係数)
- \*5. フロン法において、カーエアコン冷媒は、2023年度までにGWP150以下(対象の乗用車における国内向け年間出荷台数の加重平均値)にすることを求められています。
- \*6. 1996年乗用車の業界平均1,850g(バッテリーを除く)。
- \*7. 交通安全の観点で使用する部品(ナビゲーション等の液晶ディスプレイ、コンビネーションメーター、ディスプレイランプ、室内蛍光灯)を除く。
- \*8. VOC:Volatile Organic Compounds
- \*9. 厚生労働省が2002年1月に定めた指針物質で自動車に関する物質の指針値。

**フロンラベル**

この商品で使用しているガスの地球温暖化への影響は?

**S (ノンフロン)**

地球温暖化への影響大: B (151以上) | A (150~151) | AA (100以下) | S (ノンフロン)

目標年度: 2023年 | 使用ガスの地球温暖化係数: 1

## 地球環境へ プラス “+”のチャレンジ

～より良い環境をつくるための  
トヨタの取り組み～

### 水環境インパクト 最小化チャレンジ



使う水はより少なく、使った水はよりキレイに  
RAV4 PHVをつくる工場は、水を大切にしています。コンパクトな工程で最大限リユースすることで効率的に水を使用し、地域に還す水は昼夜を問わず水質を徹底管理。在来の川魚が生息する、豊かな水環境へ配慮した取り組みをこれからも続けていきます。